

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成 26 年 7 月 24 日 (2014.7.24)

【公開番号】特開 2013-32058 (P2013-32058A)
 【公開日】平成 25 年 2 月 14 日 (2013.2.14)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-008
 【出願番号】特願 2011-168200 (P2011-168200)
 【国際特許分類】

B 6 0 K 17/35 (2006.01)

【F I】

B 6 0 K 17/35 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 6 月 9 日 (2014.6.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 9】

[第 2 の実施の形態]

次に、本発明の第 2 の実施の形態について図 4 を参照して説明する。本実施の形態は、図 3 に示すフローチャートのステップ S 1 0 6 の指令トルク t_c を補正する処理の後に、さらに指令トルク t_c を低減する再補正処理を行う他は、第 1 の実施の形態と共通である。図 4 では、この再補正処理における処理内容の一例を示している。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 2】

この判定の結果、外気温 T_e が閾値 $S H_{t e m p}$ よりも低い場合には、ステップ S 1 0 6 で補正された補正後の指令トルク t_c をさらに低減する補正を行う（ステップ S 2 0 2）。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 3】

このステップ S 2 0 2 の処理では、例えばステップ S 1 0 6 における補正後の指令トルク t_c に、1 未満の係数 k_2 を乗じた積を再補正後の指令トルク t_c とし、又は予め定められた所定のトルク値に指令トルク t_c を置き換える。この場合、係数 k_2 は例えば 0.5 ~ 0.8 であるとよい。また、この予め定められたトルク値は、例えば駆動力伝達装置 2 による最大のトルク伝達容量の 50 % 以下、より望ましくは 30 % 以下であるとよい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0085

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0085】

次に、制御部32は、ステップS203で算出した傾斜角 θ が閾値 SH_{gra} よりも大きいかなんかを判定する（ステップS204）。閾値 SH_{gra} は、例えば5°以上の値に設定される。この判定の結果、傾斜角 θ が閾値 SH_{gra} よりも大きい場合（S204：Yes）には、ステップS106又はステップS202で補正された再補正後の指令トルク t_c をさらに低減する補正を行う（ステップS205）。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0086

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0086】

このステップS205の処理では、例えばステップS106又はステップS202における補正後の指令トルク t_c に、1未満の係数 k_3 を乗じた積を再補正後の指令トルク t_c とし、又は予め定められた所定のトルク値に指令トルク t_c を置き換える。この場合、係数 k_3 は例えば0.5～0.8であるとよい。また、この予め定められたトルク値は、例えば駆動力伝達装置2による最大のトルク伝達容量の50%以下、より望ましくは30%以下であるとよい。